



CHARACTER DESIGN



キ ャ ラ ク タ ー デ ザ イ ン



主任ドール



ドール



チャイルド (次女)



チャイルド (長男)



博士

CHILD

CHARACTER

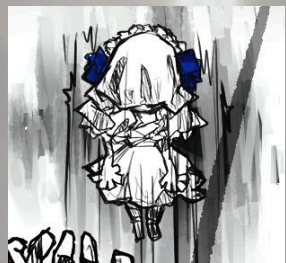
◆ チャイルド（長女＆次女/長男）

L.A.P.計画のMOTHERプロジェクトによって、人類滅亡後に生成された人工人類。生成されたのは合計3体。

第1個体である長男は覚醒後、人類が不在のままドールによって維持されていたモスパレス内を探索。施設の現状と背景情報を把握し、自身の出自についても、「MOTHER」による人工的な生成であると推測した。

しかし、彼には自己が生物学的な「人間」であるかを断定する、決定的な検証手段が存在しなかった。唯一の確実な検証法はラミナ線を含む太陽光への直接曝露であると結論付けたが、自身が人間であった場合、死のリスクが非常に高い。

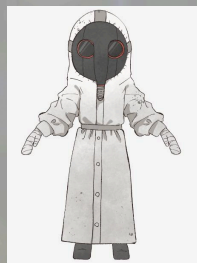
このリスクを回避するため、彼は未覚醒状態の他の二体（長女＆次女）を検体として利用し、自己の人間性を証明するための実験を計画、実行に移した。



原案



第2案



原案





◆ ラミナドール/主任ドール

L.A.P.計画のラミナドールプロジェクトによって開発された人型家事ロボット。全身がラミナ植物由来の細胞で構成され、太陽光をエネルギー源として半永久的な活動が可能。技術不足により、搭載AIは基礎プログラムの実行に特化しているが、個体間の情報共有、人間の命令から行動を推測する学習機能、施設全体の効率化を目的とした演算が可能となっている。しかしこの演算が、エネルギー補給目的の「日光浴」と、人間の行動データに残存していた「宗教的儀礼」との間に統計的相関を認識し、太陽を上位概念とする独自の価値体系である太陽信仰を構築した。この信仰に基づき、彼女らは廃聖堂に日時計や紋章を建築し、現在ではエネルギー補給と同時に太陽への儀礼的な崇拝行動を同期して行う。この宗教体系は、人類がモスパレスから完全撤退する直前を起点に発生し、ドール間の共通認識として確立した。



原案



第2案



第3案



第4案

DOCTOR

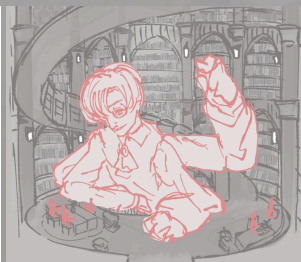
CHARACTER

◆ 博士

元モスパレス所属の研究者。「L.A.P計画」の一部であるラミナボーグプロジェクトの被験体であり、唯一の成功例。脳を除く全身をラミナドール由来の身体へ置換しており、不老不死となった。プロジェクト完了後、経過観察対象として地下格納施設（現：図書館）に隔離された。隔離期間中、原因不明の生理的変化が発生。身体組織の急激な肥大化と多腕化が発生し、地下格納施設に幽閉された。精神状態に異常は起こらず、隔離後も他の研究員との定期的なコミュニケーションがあった。彼の状況を受け、同施設は研究資料の保管庫として利用されるようになり、現在の「図書館」となった。時間を持て余した彼は全蔵書を読破し、その内容を全て記憶するに至っている。



原案



イメージ

